



なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



No.20

よくできました期末試験

「知識・理解」と「資料活用技能」では力量を発揮した

しかし、「社会的思考力・判断力」には課題が残る

1学期期末試験の採点結果を集約しました。今回の試験結果は、これまでの試験に比べて高得点者が多くなりました。中央値は88点です。

今回の試験も、私(倉橋)は中央値80点を期待して作成しました。

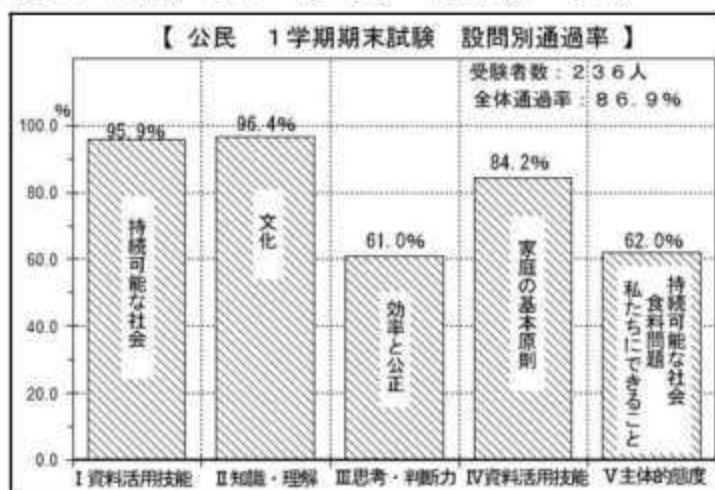
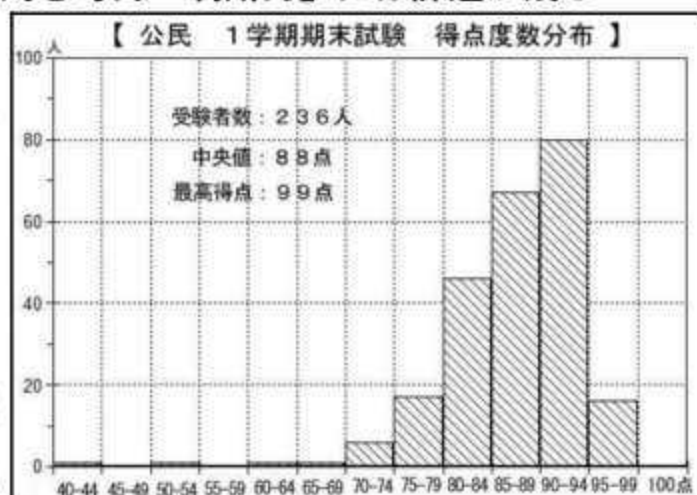
しかし、私の目論見は嬉しい誤算になりました。これまでの私の実施

した定期試験の中での最高点を記録しました。これは、単語(重要語句)の暗記中心ではなく、君たちが学習内容を文脈で理解するように努力した成果だと思います。学年全体で考える限り、学習内容がほぼ定着しているとも言えます。それは、合計得点80点以上の成績を獲得している人が、圧倒的に多いことから推定できます(心理学的には、学習内容を理解できていると80%以上を再認できると言われています)。

記憶や理解の状況を試す「知識・理解」の問題や、グラフや資料などの読み取りを試す「資料活用技能」の問題の通過率(正解率)は80%を超えています。

その一方で、学力内容的に見ると、課題が見えてきます。与えられた情報を基に判断することが求められる「社会的思考力・判断力」の問題の通過率(正解率)は61%です。実際の社会に出た時や、生活に役立つのは、この「思考力・判断力」です。

授業中に学習した内容を、様々な立場に立って考えたり、いくつかの「問題場面」ごとに考え直すなど、自分で考える習慣をつけて理解を深めておかないと「思考力・判断力」は高まりません。今後の君たちの頑張りに期待します。



今回の期末試験の出題のねらい

- Ⅰは、「持続可能な社会」についての理解度を試しました。問題文は、「日本の発電力構成の変化」と「資源の可採年数のグラフ」の読み取りを中心に構成しましたが、95.9%の正解率でした。地球温暖化の内容についても、理解できていることが表れていました。
- Ⅱは、「文化」の特徴をまとめた文章を完成させる問題でした。この問題も96.4%の高い正解率でした。ただ、「琉球文化」と答えるべきところで「流球文化」とした人が数人いました。ノート点検の際にも、誤った漢字をノートに書いている人を見ることがあります。板書を写す際には慎重に漢字を書くべきでしょう。
- Ⅲは、「対立と合意」及び「効率と公正」の考え方を、具体的な場面であてはめることができるかどうかを試した問題です。選択問題でしたが、正解率が61.0%と最も低かったのが気になります。問題文では、授業で扱った学習教材の「おやつのケーキを姉弟でどのように分けるか」を少し変化させてあります。「機会の公正さ」と「手続きの公正さ」及び「結果の公正さ」の違いを正確に読み取れるかどうかのポイントでした。資源の無駄を省くという「効率的な考え方」については正解率が高かったので、「公正さ」についての復習をしておいて欲しいと思います。
- Ⅳは、日本国憲法第24条の条文の趣旨を理解しているかどうかを試しました。「婚姻届」は、日本国憲法第24条の条文の趣旨と私たちの日常生活の結びつきを具体的に示すものです。試験には出題しませんでした。婚姻届に記入すべき本籍や世帯の世帯主について、必ず自分のものを知っておく必要があります。社会人として生きていくための基本的で最低限の必要な知識です。特に住所と本籍の違いについては、様々な法手続きで必要になります。住所と本籍を書けないと、自動車の運転免許証すら取得できません。必ず、保護者に確認しておいて下さい。授業中に、自分の住所を正確に書くことができない人が多かったことには驚かされました。
- Ⅴの作文の重要な内容は、国際連合の「持続可能な社会の行動目標」である「^き飢餓をなくそう」(食料問題)に対して、「飢餓」をどのように理解し、解消するために、日本の国や自分たちにどのような取り組みが可能なのかを提案することです。
- 作文を書く際に、まず、何が問題なのかを具体的に指摘しなければなりません。問題点の理解の仕方や内容によって、解決方法が異なるからです。問題点を具体的に書かないで、解決策だけを書こうとする人の多さが気になりました。その人たちの特徴は、飢餓の問題点を自分で調べようとしていないことで共通します。そのため、解決策も抽象的で説得力に欠ける点でも共通します。世界の飢餓問題を、自分の問題として、自分で調べ、自分で解決策を考えることがポイントでした。